



インテリアデザイン研究室

Interior Design Lab.

北脇 玲男

KITAWAKI, Reo / Assistant Professor

小説を用いて塩屋の新たな一面を見る

Seeing a New Side of Shioya through Novels

兵庫県神戸市にある小さな街、塩屋。海と山に囲まれた自然豊かな場所で、こじんまりとした雰囲気のあるお店が多いことが特徴だ。

今回は、塩屋の街と似た雰囲気を感じる街が舞台となっている「海が見える家」という小説を参考にして提案を行う。

小説を読んで感じ取ったイメージと塩屋の街を比較し、そこから得られた街の雰囲気や考え方の違いを基に、より塩屋らしさを引き出すためにはどのようにすべきか考えていく。

塩屋の街に小説の街を取り込むという今までは違ったやり方をする事で、塩屋の良さを残しつつ今までに見られなかった街並みや生活の仕方など、新たな一面を見たいと考えている。

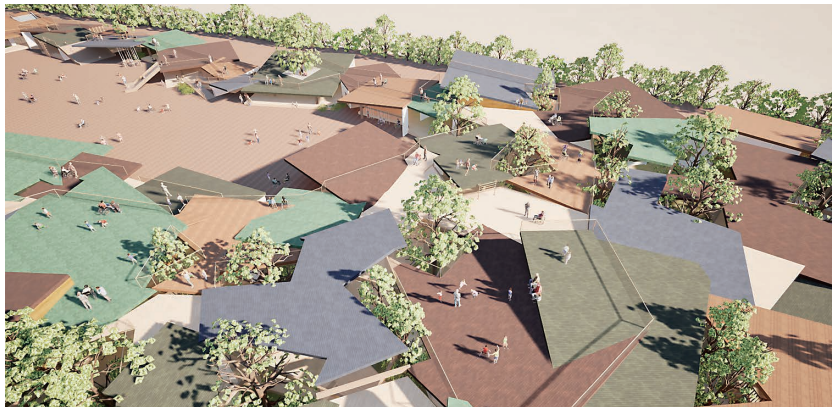


加藤 彩季

KATO, Misaki

世代を繋ぐ秘密基地 保育園とデイサービスの融合施設

A Secret Base Connecting Generations: Shared Space for Childcare and Elderly Services



滋賀県栗東市に位置する施設。現状は児童館、デイサービス、高齢者のサークル活動が行われている。しかし、高齢者と子供が交流する機会は年に数回のみで、もう少し交流したいという声が多く上がっている。

子供と高齢者が交流するメリットは多くあり、互いを思いやる気持ちや生きる活力が生まれる。この施設をリノベーションすることによって子供と高齢者が日々交わり合う。

敷地の周りは森と住宅街に囲まれており、建物の外観は住宅が重なっているように見える。しかし、建物に入ると森の中にいるような、秘密基地の中に迷い込んだような景色が広がる。この秘密基地が子供と高齢者を繋ぐ…。

川端 夏穂
KAWABATA, Kaho



姫路の新拠点 遊歩道がつなぐ地域と観光客

Himeji's New Hub: A Promenade Connecting the Local Community and Tourists

地域のリーダー校として市民から親しまれる高校を目指す姫路高校。シンボルであるバルナソスホールでは、コンサートだけでなく、近くの小学校や保育所の発表会も行われてきた。そんな姫路高校だが、少子高齢化により廃校となる。

地域に愛されたこの場所を残したい。交通の弁がよく、観光地に挟まれたこの場所。現状と同様に、地域の人に親しまれる施設を目指し、また、姫路城という世界遺産がある街で、地域と観光客が交わる新たな姫路のシンボルを目指す。



小林 莉子

KOBAYASHI, Riko



響き渡るフィールド ドーム周辺の活性化

Echoing Field: Revitalisation of the Area around the Dome



埼玉県と東京都の都県境に広がる狭山丘陵の自然豊かな環境に位置しているベルーナドーム。ベルーナドームは埼玉西武ライオンズの本拠地で多くの名勝負が繰り広げられた野球場である。2021年3月に大規模な改修工事が完了し、多くの楽しみがあるボールパークとなった。

その中で開場時間前は周辺に飲食店や休憩所がないため、少し退屈してしまう。そんな退屈な時間や一日中楽しむことができる空間を提案する。

歓声が波紋のように広がる情景をイメージし、円を基調としたデザインを採用。カフェや広場などの楽しみを提供する。



嶋本 梨那
SHIMAMOTO, Rina



明星 闘病生活中的親子ヘリノベーションの提案

The Star of Hope: Renovation Proposal for Parents and Children who are under Long Medical Treatment

明るく輝く金星__別名「一番星」。それはどんな闇の中でも道しるべとなる星。この施設は闘病生活中的の親子にとって、そんな“一番星”のような存在を目指す。ここに訪れる一人ひとりにとって、一番星は異なる。心を休められる居場所。出会いや会話を通じて生まれる安心感。子供たちの笑顔が広がる遊び場。そして、希望を取り戻すきっかけとなる瞬間。

この施設は、親子が共に笑い、支え合い、そして少しでも前を向ける時間を紡ぐ場所だ。疲れた心にそっと寄り添い。明日を生きる力を灯す。どんな夜空にも一番星が輝いているように、この場所があなたにとっての光となる。

ここであなた自身の一番星を見つけよう。それが、未来へとつながる新たな輝きとなるはずだ。



寺内 紗来
TERAUCHI, Sara

Mine Collection 2025 SS 岩の空間的価値を活用したインテリアデザイン

Mine Collection 2025 SS: Interior Design Utilizing the Spatial Value of Rocks



洞窟の潜在的価値とファッションショーの在り方を問う。

ショーにはデジタル空間上の体験と物理的な体験の2つがある。近年ではあたりまえのようにSNSを通じてショーが世界中へと発信される。デジタル技術の発展や、パンデミックによる完全オンライン型のショーの開催を経て、デジタル空間上でのショーの体験に注目が集まっており、今後のショーがデジタル的な観点から設計されていくことは考え得る傾向である。そういった現状であるからこそ、物理的なショーの意義について再認識し、その体験価値と向き合いたい。物理的な体験価値を高めるためにショーの舞台を洞窟へと移す。

数億年もの歴史の積層である洞窟であるが、その存在は決してノスタルジックなものではなく、我々のクリエイティブを発展させる可能性を秘めたフューチャリティックなコンテンツである。

インテリア部門賞

長谷坂 友飛

HASESAKA, Yuto



地上の魅力を映し出す地下空間 新たな玄関口としての日本の地下鉄駅デザイン

Underground Space that Reflects the Charms of the Ground: Japanese Subway Station Design as a New Gateway

“駅”は街の玄関口である。

電車を降り、駅を通り、地上に広がる街に出る。

街にはその土地ならではの雰囲気や特徴、魅力が溢れている。日本の地下鉄の駅は、そんな街の玄関口であるにも関わらず、薄暗く質素な空間で似たような駅デザインのものが多い。電車を降りた瞬間からその街ならではの雰囲気や魅力を感じるような、街の玄関口としての新たな地下鉄駅デザインを提案する。

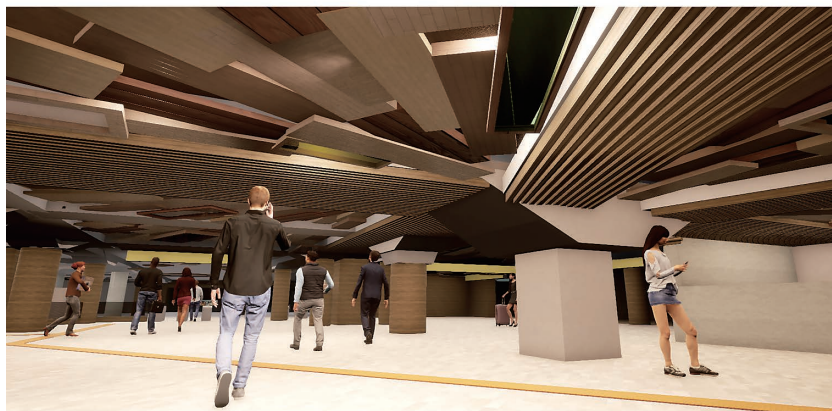
私の最寄り駅である地下鉄の天神橋筋六丁目駅もまた、質素で無個性な空間になっている。今回は、新たな玄関口として日本の地下鉄駅デザインの一例として、天神橋筋六丁目ならではの雰囲気や魅力を“多面性”、“樹形”、“異彩”の3つのキーワードで総括し、駅空間に映し出した。

質素な地下空間にその土地の表情を加え、街の玄関口として利用する人々の気分が高まる駅空間になることを期待している。



矢野 絢子

YANO, Junko



ものづくりが始まる場所 見える材料と見えない材料:ものづくりの可能性

The Place where Manufacturing Begins: Visible and Invisible Materials: Possibilities of Manufacturing



ものづくりっていくつもの材料を組みあわせる

その材料って？

糸、布、金属、ガラス……他には？

知識、価値観、経験などもものづくりの材料なのでは

その見えない材料によって作品の個性が生まれる

そのように思う

ものづくりの材料を提供

その材料を空間のデザインに活用する

江戸時代から天下の台所として栄えてきた大阪

船着き場に近く、経済や流通の中心地となった船場

その地に生まれた船場センタービル

そんな御堂筋に面する一部をリノベーション

ものづくりが始まる場所を創造する

山田 あゆ美

YAMADA, Ayumi

